

## 新刊 Book Reviews

□豊田武司：**小笠原諸島固有植物ガイド** 2014. A5. 623 pp. ウッズプレス. ￥3,500 + 税. ISBN 978-4-907029-03-6.

小笠原植物についての、著者の長年にわたる蓄積を整理したもので、今後しばらくは、これに肩を並べる作品は現れそうにない。1-176頁の図鑑編では、125種類の固有種、および91種類の非固有種、外来種がカラーで見られる。これに加えて父島、母島の代表的林相8点、小笠原諸島の代表的景観20点が示される。

本文はまず、固有種の解説に始まり、70種類の木本、38種類の草本、17種類のシダについて、学名、和名の詳細な解説、植物体の記述、現場での生態や変遷について詳しい。とくに長期在島者と一時的訪問者による記録の落差については、丹念に比較検討している。

499-529頁には、中井猛之進：小笠原島の植物（理学界26(4), 26(5), 1928年）が再録されているのだが、著作権利用についての断り書きが見当たらない。本書の刊行元である、ウッズプレス社の森社長に尋ねたところ「著者の中井氏は1952年に亡くなっている。作品の著作権保護期間の50年は過ぎている。また理学界の発行所として記録されているいくつかの会社名は、今日、インターネット検索で現存が確認できない。」とのことだった。中井氏の作品は、小笠原の植物をまとめて扱った最初の文献で、植物リストと研究史、植物目録、木本植物の近隣地域を含む分布表に加えて、豊田氏の詳細なチェックが加えられており、単なる再録以上の付加価値が生じている。

559-590頁の小笠原諸島の植物目録には、父島、兄島、弟島、母島、向島、火山列島（硫黄列島）における約840種類の植物が、その由来を固有、帰化、野化、栽培に区別して挙げてある。

まだ遠洋航海が冒險だった時代から、あるいは戦後の食料源として、島々に放たれた山羊による被害は甚大で、聟島列島などでは、植被が喰い尽くされた島もあるという。最近ではほとんどの島で山羊の駆除は終ったそうだが、父島本島ではまだ残っていて、彼らの好物のオオハマギキョウの集団が、突然食いつくされてしまったりすること。

無人の離島における植被の移り変わりは、海洋

島のフロラ変遷を知る一助となるだろうから、今後注意深く見守る必要がある。この点からすると、資料IIIの植物目録には、聟島列島、鳥島、沖ノ鳥島、南鳥島なども、一緒に記録できるように、表を設計しておいてもらえたなら、後続の人たちが利用し易いだろうと思った。硫黄島（中硫黄島）のような、激戦の後に基地として利用され続けている島では、他の島とは異なる変遷が記録されるだろう。こういうことは言うは易く行うは難い。というのは、得られるべき成果を予知することができず、しかも研究費がもらえる期間に対して、成果が期待されるまでの時間が、桁違いに永いからである。「いつまでも空き地にしておかないで、ゴルフ場にしたらどうか」とか「一部に保護緑地を作つて、残りは空港にする方が、費用対効果の面で有効だ」という短期決戦型の主張に、自然史研究は対抗し難い。アホウドリ営巣地の移転に成功したのはご同慶の極みであるが、「折角だから、観察台を造つて皆に見てもらおう」ということになりはしないかと、心配している。

（金井弘夫 H. KANAI）

□浅井元朗：**植調雑草大鑑** B4. 359 pp. 2015. 全国農村教育協会. ￥9,800 + 税. ISBN 978-4-88137-182-4.

表題の「植調」とは、本書を企画した日本植物調節剤研究協会のこと。

15頁の「本書の利用にあたって」によると、2010年代の日本において、人間の管理（人為攪乱）が加わる立地に生育する植物群のうち、水田雑草129種と、畑地雑草583種、計712種を採録し、うち約500種について、種子、幼植物、成植物、花、果実の写真を掲載した、とのこと。

原則として、見開き2頁に2種類（ときに4種類）を配し、出芽直後の子葉の展開期から、以後数節にわたる葉の展開状態が必ず示されている。これは、早期に種類を判別して、有害種ならばその対策を講じるのに役立てようという配慮と思う。

開花、結実期の草丈は、足首、膝、胸…のように、大人の身体部位で示され、正確さを強調したa-b cmよりも実際的だと思う。花や果実のアップ、種子（この用語については後述）の写真はもちろんついている。

たとえばオオイヌノフグリの見出しの下には、次のような項目と記述がある。「大犬の陰嚢. speedwell, Persian. オオバコ科. クワガタソウ属.